

# 「台湾防衛」 沖繩の基地を特筆

## 米シンクタンク

一面報道の米シンクタンク「戦略国際問題研究所」(CSIS)による「台湾防衛」机上演習の報告書は、在日米航空基地には「絶大な価値」があると強調。とりわけ、沖縄県内の基地について特筆している。

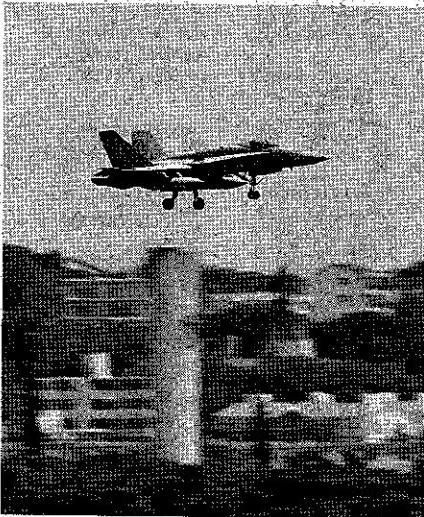
### 平時から配備提案

報告書は、アラスカやハワイから飛来した米軍機も中国軍を攻撃できるとした上で、沖縄の嘉手納基地や「日本南部の基地」から出撃した航空機は、より多くの航空優勢作戦を、より少ない空中給油で実行できると指摘しています。

さらに、米海兵隊が沖縄に創設するとしている海兵沿岸連隊(MLR)に言及。中国の台湾侵攻が始まる前に沖縄から台湾に出撃

## 米軍・自衛隊機 大量の残骸 ■ 臨時の墓地広がる

# 嘉手納の惨状を予想



嘉手納基地を離着陸するF-18戦闘攻撃機—2022年4月21日、沖縄県嘉手納町

なります。

### 3200人が戦死

報告書は、あらゆるシナリオで中国の台湾侵攻が失敗に終わり、最終的に米・台湾・日本を中心とする「同盟軍」が勝利するとの結論を導き出しました。同時に、膨大な艦船や航空機が破壊され、大量の兵士が死傷すると想定。最初の3〜4週間の戦闘で発生する米軍の犠牲者は6000〜1万人に達し、約3200人が戦死すると想定。1日平均約140人で、ベトナム戦争の1日平均約30人の4倍以上になるとしています。

米軍にとって沖縄の基地が特筆すべき価値を有しているのは、台湾との地理的な近さです。同時に、中国とも距離的に近く、攻撃対象になるという脆弱(せいじゃく)性を抱えることに

報告書は、その象徴とし

て、嘉手納の惨状を予想。全飛行隊が攻撃され、滑走路の両脇には米軍・自衛隊双方の機体の残骸が大量に横たわり、基地内の病院は負傷者で埋め尽くされ、臨時の墓地が広がるとしています。

ただ報告書は、戦闘に巻き込まれる民間人の犠牲性については想定していません。日本の軍事基地の多くは民間地域に位置しており、大量の民間人が犠牲になることは必然です。報告書は、米軍基地だけでなく、自衛隊基地を含む「すべての軍事基地」が攻撃対象になるとしています。

報告書は、「台湾防衛」は必要だとの立場ですが、為政者はこうした大量の犠牲が出ることを理解する必要がありますかあるとしています。

「台湾有事は日本有事」などとして、米軍の戦争に喜んで参加しようとする勢力は、少なくとも、どれだけの自衛隊員と一般国民が犠牲になるのかを示す責任があります。